

「アメリカ最終週」

海上保安大学校国際業務課程 内田 洋都
真崎 輝



アメリカでの生活も最終週となりました。今回が Weekly Report 最終号になります。今までご覧いただきありがとうございました。

USCGA 大学校長にプレゼン&挨拶

私たちは、2/23日(金)に二度目の Johnston 大学校長への面会の機会をいただきました。今回は、Johnston 大学校長が日本の海上保安庁や海上保安大学校について興味を示されていた前回の面会を踏まえ、今後の協力発展に向けた互いの相互理解を深める目的で、私たちから海上保安庁や海上保安大学校についてのプレゼンを行いました。大学校長からは日本のコーストガードは US コーストガードと似ている部分が多く、今後の協力発展が重要である旨の言葉をいただきました。



USCGC Razorbill の見学

USCGA 敷地内にはコーストガードステーションが併設されています。ここに係留されているカッターは乗組員 11 名程度と小型で、主に沿岸域の密漁取締や海難救助業務にあたっています。運用は USCGA から独立しており、学生が実習としてこのカッター(巡視船)に乗ることはありませんが、業務を身近に感じる事ができる点が大きな特徴です。船齢は 20 年程度ですが、常に最新の設備にアップデートしており、USCGC Tahoma と同様に海図は全て電子化されています。



お世話になった職員、学生との別れ

USCGA を経つ前に、これまでお世話になった教職員方や学生に挨拶と別れの言葉を交わしました。USCG の方々には今回の研修にあたり多大なご協力をいただいております。私たちの方から感謝の言葉を伝えました。また、一緒に授業や授業時間外の活動を通じて時間を過ごした学生にも感謝を伝えました。



在アメリカ合衆国日本国大使館訪問

私たちは USCGA からの帰路の途中、ワシントン DC にある日本国大使館を訪問しました。大使館では、野村公使をはじめ、様々な職員の方々とお話をさせていただく機会を設けていただき、昨年海上保安大学校の練習船こじまがポルチモアに入港した際の対応について感謝を述べさせていただきました。私たちは今回の大使館訪問を通じて日本の外交や邦人対応が行われている現場の雰囲気を知ることができ、将来海上保安庁の国際業務の一翼を担う可能性のある者として非常に刺激的な経験となりました。



今回の研修を終えて

3ヵ月弱に渡る研修もいよいよ終わりを迎えます。はじめは、ホテルに着いて夕食の食材の買い出しに行ったとき、陳列されている惣菜の料理の種類も買い方も全く分からず、とはいえ現地の人に聞いてみても現地の人々の発音が聞き取れず苦労しましたが、今ではアメリカでの生活に支障は感じません。また、この研修を通じてアメリカ国籍の人のみならず、非常に多くの国の人と出会うことが出来ました。既に USCGA で出会った人の中には日本で会う約束をしている人も数人おり、中には既に会う日程が決まっている者もいます。アメリカでの生活を通じて得ることのできた繋がりは一生の宝であり、経験は今後の人生の糧となります。海上保安大学校を卒業してから赴任前にこの経験が出来たことは私にとっては幸運でしたが、少なからず現場業務から離れた期間が存在することを意味します。その分、日本に帰ってからは現場職員に対して恩返しと貢献ができればと思います。最後に、江口大学校長、小山事務局長をはじめ海上保安大学校の教職員の方々、総務部教育訓練管理官を始めとする本庁の方々にはこの研修の実現に向けて多大なる尽力を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、この研修は（公財）日本財団様、（公財）海上保安協会様の多大なるご協力なくして実現し得ませんでした。改めて心より御礼申し上げます。（内田 洋都）

海外研修も終わりを迎え、振り返ってみるとあっという間だったというのが正直な感想です。当初はネイティブスピーカーの英語を聞き取ることが出来ず、挫折しかけることも多々ありました。しかし内田研修生と助け合いながら過ごしているうちに段々とコミュニケーションをとることが出来るようになってきて、不安が楽しさに変わっていくのを感じました。USCGA 研修期間中には学生たちと授業を一緒に受けたり、USCG の業務見学を通して USCGA の教育や現場運用の一端垣間見て、USCG についての理解を深めることが出来ました。これは将来 USCG の職員と一緒に仕事をする際に円滑にコミュニケーションが取るための基礎になるのではないかと考えます。また、USCG の将来を担う学生たちと繋がりを築くことができたことが何よりの成果であると感じます。今回は6週間という短期間の研修でしたが、今回の研修が今後の長期留学実現へのロールモデルとなり、JCGA と USCGA のパートナーシップが更に発展し、強固なものになっていくことを願っています。今回の私たちの研修に際し、ご尽力いただきました海上保安大学校及び本庁、日本財団、海上保安協会を始めとする関係者の皆さまに厚く御礼申し上げますとともに、今後は私自身が海上保安庁の国際分野の一翼を担う存在となれるよう精進して参ります。（真崎 輝）

